

日本航空（JAL）からの
出向職員を紹介します

すべてが学び

企画部企画課主査 兼
主幹付主査（空港開港100年記念担当）

あかさか えり
赤坂 絵梨さん



札幌市出身／2001年株式会社 JAL スカイ札幌入社、日本航空株式会社出向、丘珠空港所長、株式会社 JAL グランドサービス札幌出向を経て2025年より千歳市へ出向。／趣味は旅行と、ご当地グルメの食べ歩き。

日本航空株式会社（JAL）から企画部企画課主査兼主幹付主査（空港開港100年記念担当）として着任しました。

もともと「非日常的な場所まで働きたい」と思い航空業界に入りましたが、まさか行政の仕事に携わることになるとは、自分でも想像していませんでした。

それまで市役所は「手続きをする場所」という印象が強かったのですが、実際に働いてみると、市民と行政が一緒にまちづくりに取り組む「対話の場」であることに気づかされます。今こうして貴重な経験をさせてもらえることに、心から感謝しています。まだまだわからないことも多いですが、すべてが学びの連続で、毎日が刺激にあふれています。

現在は企画課で、《地方創生》や《市民協働》を担当しています。地方創生では主に移住相談

や関係人口の拡大に関する業務に携わり、市民協働では市民の皆さんと共に事業を進める取り組みに関わっています。その中で出会った方々の多くが「これまでの経験を活かしたい」と熱意を持って活動しており、大きな刺激や学びをもらっています。

空港開港100年記念担当としては、記念事業の検討や事業運営、出前講座などを行っています。

初めて講師を務めた時に「空港の歴史を初めて知り感動しました」「ますます千歳市が大好きになりました」といった声をいただいたことが、何よりも嬉しく、やりがいになりました。また、空港開港100年という記念すべき節目に携われることも、本当に光栄です。記憶に残る印象深いものとなるよう、市民の皆さんや関係者と力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

千歳市に住み始めた頃から「住みやすいまち」と感じていましたが、こうして市役所の仕事に携わること、あらためて千歳市の本当の魅力を知ることができました。このまちは今後も新しい変化が期待されます。そんな中、市民の皆さんと関わりながら、自分自身も発信していける存在でありたいと思っています。

出向期間は2年間。1日1日を大切に、千歳市の皆さんと共にこのまちをさらに盛り上げていきたいと思っています。

先生、教えて!



大腸がんのお話②



市立千歳市民病院
外科医長 坂本 聡大

今回は大腸がんの治療についてお話しします。大腸がんは、進行度（ステージ）により治療方法が変わります。

大腸粘膜から発生しましたが、腸管壁の深部へと進展します。粘膜下層までのがんは「早期大腸がん」です。粘膜下層の浅部までの早期大腸がんは、内視鏡治療が行えます。大腸内視鏡で、大腸の内側から病変を切除します。切除方法は病変の大きさや深さ、形などで決まります。

粘膜下層より深いがんは「進行大腸がん」です。進行大腸がんやリンパ節転移が疑われる場合は、基本的に手術の適応です。手術は開腹手術と低侵襲手術に分かれます。低侵襲手術である腹腔鏡手術は、おなかの中を腹腔鏡（カメラ）で見ながら行います。傷が小さく

手術後の身体の負担が少なく、カメラの拡大視効果のため細かい解剖を認識でき、繊細な手術が可能です。当院でも大腸がんの手術は主に腹腔鏡手術で行っています。最近では、低侵襲手術のロボット支援手術も普及していますが、当院にはまだ導入されていません。

大腸がんの腫瘍細胞がおなかの中に広がってしまう「腹膜播種」や、リンパ節や血管を介して他の臓器へ「転移」した場合は、主に抗がん剤治療を行います。近年は抗がん剤治療の成績が上がり、当初は切除が困難でも抗がん剤により根治切除が可能となるケースが報告されています。

大腸がんは発見が早いほど根治の可能性が高くなりますので、定期的ながん検診を受けて早期発見につなげましょう。

第34回